

SGH 関高の医療系学部学科受験対策。

基礎学力養成はもちろん、面接・小論文対策も充実。

医師、看護師、検査技師など、医療分野での活躍をめざす人が増えています。高齢化が進行する今日、地域医療を支える人材の育成は急務。関高では、医療の道をめざす生徒を支援するさまざまなイベントを企画しています。

また、近年では、医療や福祉を支える技術やシステムがめざましく発達しています。理工系学部学科に学び、医療や福祉、製薬などの分野を支える人材も重要。関高では、分野を超えた可能性を探るための支援も積極的に行っています。

医療の仕事を知ろう

医療の仕事につくためには、高い学力を身につけると同時に、仕事への理解を深めコミュニケーション能力を高めることが求められます。多くの医療系学部学科で、学力試験以外に、面接や小論文が課せられているのは、医療従事者としての適性をみるためです。

医療現場で働く人、医療従事者を教育する人に話を聞いてみる。読書や医療体験、ディスカッションを重ねることにより、視野を広げ思考を深める。面接・小論文対策には、そんな実践が必要不可欠です。

関高では、医療の仕事への理解を深めるための行事を多数企画しています。



関高・中部学院大 看護合同ゼミの様子



金沢大 北岡和代教授の講演

2015年度・医療関連のイベント

医療研究者・従事者の講座

北岡和代先生(金沢大教授、看護学) 「金大 Open campus in 関高」 3年希望者

早稲田紘士先生(県立多治見病院医師) 「さくら塾」 全学年希望者

後藤忠雄先生(県北西部地域医療センター長) 「職業別ガイダンス」 1年希望者

丹羽康則先生(自治医科大学講師、医学) 「先輩を囲む会」 2年希望者

中村亜美先生(東海中央病院看護師) 「先輩を囲む会」 2年希望者

林 典雄先生(中部学院大教授、理学療法学) 「さくら塾」 全学年希望者
高見 剛先生(岐阜大学名誉教授、医学) 「さくら塾」 1・2年希望者

医療体験・セミナー

ふれあい看護体験(県内各病院で実施するインターンシップ)
県北西部地域医療センター宿泊研修会
関高・中部学院大合同ゼミ(大学のゼミに参加)
中部学院大医療体験セミナー
ベトナム研修(ダナン医療技術大学訪問)
先端科学リサーチツアー(東大・早大で医療工学、福祉工学の研究施設見学)

面接・小論文対策

「さくら塾」 小論文・面接対策講座(岐阜経済大・東京法律専門学校との連携事業)
小論文模試、日本語表現力育成教材の実施
関高教員による個人指導



岐阜大 高見剛名誉教授の講義
医学部医学科の受験対策について



県立多治見病院医師 早稲田紘士先生の講義
心肺蘇生法の実習

卒業生の言葉 ～2015年3月 合格体験記その1～

岐阜大学 医学部医学科
坂本 倫太郎
(下有知中学出身)

僕の高校生活を一語で表すならば、それは「全力」です。勉強や部活動など、あらゆることに、僕は全力を尽くしてきました。そして高校三年間を終えた今、「真面目に、全力を尽くす」これこそが、高校生活、ひいてはその後の人生全てにおいても求められるものなのではないかと、未熟ながらも感じています。

勉強に全力を尽くす、それはすなわち、質と量、ともに高水準の勉強をすることに他なりません。では、どうすればそのような勉強が出来るのでしょうか。答えは、「授業・課題・テストに全力で

取り組む」です。学校の組むカリキュラムは本当に練られています。1・2年のときはその効果が分からなくても、3年の後期に入ると、「ああ、ちゃんと学校の勉強をやっておいて良かった」と思えるようになります。

ここで大事なことは、「全力」でやる、ということです。例えば、僕は、課題をこなすときに、分からないことをそのままにはしませんでした。テスト勉強では、その範囲を完全なものにする意気込みでやりました。つまり、理解を貪欲に追い求める姿勢が、最終的には実になるということです。学校の勉強をその場しのぎで終わらせていないか、よく振り返ってみてください。

ここまで「学校の勉強で十分だ」ということを述べたつもりですが、にわかには納得しがたいものではないでしょうか。物足りなく感じる人もいるはずですが、ここで、もう一つ大切なことを述べます。それは、先生のアドバイスです。私たちのほとんどは、大学受験をするのは初めてです。当然、分からない事だらけで、先は全く見えません。ですが、先生は逐一その場で必要な情報を伝授してくださいます。特に、日々の勉強方法や、やるべきことは、とても参考になりました。授業・課題に加え、アドバイスを基にした自習を組み込めば、本当にそれで十分だと思います。

先生方のアドバイスに、間違いはありません。もしまだ納得できない部分があったとしても、アドバイスには素直に従ってください。損することは絶対にないです。何を言おう、教育のプロフェッショナルがおっしゃっているのですから。

最後になりますが、数々のアドバイスをもらったところで、実行しなければ意味はありません。さらに、自分には合わないと感じるものの中にはあるでしょう。そして、人間の記憶力はそこまですぐれてはいません。そこで、自分が「これは……!」「やってみようかな……?」と思ったものだけでもいいです。とりあえず行動に移しましょう（本当は素直に従って欲しいところですが）。千里の道も一歩から、0と1の差は大きいです。

そして、みなさんが「関高生でよかった」と心から言えるような高校生活が送れることを願って止みません。応援しています。

卒業生の言葉 ～2015年3月 合格体験記その2～

岐阜大学 医学部医学科

山口 利 穂

(美濃中学出身)

とにかく行動する

医師になりたい！そのために医学部にはいるぞ！！この目標は私の高校での学習において大きな支えとなりました。しかし高校に入ったばかりの私は、様々なことに興味を持っていたものの、はっきりとした目標を持っていませんでした。自分の将来を高校生のうち決めてしまうようで抵抗があったのかもしれませんが。そんな私がどのように目標を持ったのか。私は英米学科、心理学科、薬学科、保健学科、医学科など少しでも興味のある学科のオープンキャンパスに、文理を問わず参加しました。また、理学療法医学概論や一日医師体験、へき地医療研修会にも参加しました。そうして医師になりたいという目標にたどり着くことができました。今でも、様々な職種や可能性を考慮して、後悔のない選択ができたかと胸を張って言うことができます。今目標のない人はとにかく

行動してみてください。ただただ頭で考えても後悔しない目標の選択はできないと思います。

井の中の蛙になるな

ある先生が私たちに、「井の中の蛙になるな」とおっしゃいました。私は深くこの言葉に共感します。関高生の欠点は自分たちのコミュニティのみで競争し、満足してしまっているところだと聞いたことがあります。これを痛感したのは『科学の甲子園』に参加したときです。岐阜県内の高校生が集まるのですが、そのメンバーに私は圧倒されました。模試で全国順位一桁の人。超難関大学を目指す群団。難問を楽しそうにスルスル解く人たち。岐阜県内にこんな人たちがいるということを知り、自分の力のなさをはっきりと実感することができました。今自分の学力に満足している人は伸びることはできません。関高生のみなさん、もっと視野を広げてください。もっと外を見てください。受験勉強において「足るを知る」のは、受験本番の朝でいいと思います。

具体的な学習法

どの学習法がよいかは、個人で違うと思います。ここでは、私が3年間勉強をしてきて、私なりのBESTな学習法だ！！と思ったことを伝えたいと思います。

① とにかく繰り返すこと

一周した問題集はまだ自分の力として身についたとは言えません。何周も解き、さらに解けなかった問題を重複して解くことが本当の自分の力につながります。

② 書き込んでMY参考書にすること

参考書・教科書は汚すものだ！と私は思います。自分なりの書き込みをしていくことで、見返した時にその時の記憶が呼び戻され、より強い記憶として残ると思っています。

努力なくして目標は達成できません。目標に向かって全力で突き進んでください！